



宇都宮大学  
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇都宮大学  
**教職大学院通信**  
[ 大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 ]

第 9 号  
H28.6発行

## とちぎの学校教育に貢献する教職大学院を目指して！

地域の「知の拠点」である大学には、地元にも広く貢献する使命があると考えます。宇都宮大学も、「地域の“知”を創造し変革をリードする大学」、すなわち地域の発展を支える大学でありたいと強く願っています。もちろん、学校教育分野も例外ではありません。教職大学院には、理論と実践を往還する現職教育のノウハウがあります。また、多くの学校や諸団体に招聘され、研修を支援したり、授業づくりを支援している専任教員がいます。更には、専任教員とともに大学院生が学校に入り、学校の活性化に関わっている事例もあります。今まで以上に、とちぎの学校教育の貢献したいと考えている教職大学院の情報を、今回は一部御紹介いたします。

### ◆教職大学院専任教員への講師依頼等について

長い時間をかけて、宇都宮大学は栃木県内の多くの学校とつながってきました。教育学部の教員も、多数、学校への訪問等を行っています。同様に教職大学院(教育学研究科教育実践高度化専攻)専任教員も、引き続き、学校や諸団体の要請に応じて様々な支援を行う予定です。以下に、その手がかりとして、専門分野等の一覧表をお示しします。日程や条件が合えば、県内どこへでも伺うことが可能ですので、教職大学院教員派遣の窓口になっている石嶋和夫特任准教授(コーディネーター・Tel. 028-649-5272)に、まずは御要望をお伝えいただけますようお願いいたします。

専任教員名	主な専門分野	学校及び諸団体への支援内容・メッセージ
松本 敏 (専攻長・教授)	社会科教育学 授業研究	* 多忙な現実打ち克ち教育の成果を上げるためには授業研究を通して「同僚性」を高めることが効果的と考えて実践しています。他に法教育やNIE(新聞活用教育)などの相談にも乗ります。
青柳 宏 (教授)	教育学 教育方法学	* 「ことばと人間形成」という視点から研究、実践を積み重ねてきました。「言語活動」というテーマは勿論、「ことば」という視点から、先生方のお手伝いをしたいと思えます。
石嶋 和夫 (特任准教授)	学校経営学 カリキュラム学	* 28年半の学校現場の実践と8年半の教育行政の経験を反省的に振り返り、学校経営や保護者対応、人権教育、生徒指導などについて、自らの失敗から学んだことをお伝えできればと思っています。
小野瀬善行 (准教授)	教育制度 教師教育	* 学校運営協議会や小中一貫教育の導入など、学校に大きな影響を及ぼす改革が進行しています。なぜ、今、その改革が求められているのかという展望を現場にいる先生方がもてるお手伝いをしたいです。
久保田善彦 (教授)	教育工学 理科教育学	* アクティブ・ラーニングや協働的な学習の考え方や授業実践の方法について、校内研修の支援や講話を行っています。専門分野に限らず、授業改善の在り方を検討しています。
近藤 秀人 (准教授)	国語教育 生徒指導	* 国語教育や学び合い、特別活動、教育改革の動向、生徒指導、保護者対応等をテーマにした校内研修への支援や講話等を行っています。最近の関心事は、「若手人材の育成」と「深い学び」についてです。
司城紀代美 (准教授)	特別支援教育 発達臨床心理学	* 発達障害等の支援が必要な子どもも含め、多様な子どもたちがともに学ぶ授業づくり、学級づくりについて取り組んでいます。子どもたちの姿から学び、先生方とともに考える研修を目指しています。
原田 浩司 (准教授)	特別支援教育 発達障害	* 授業に集中できない、学習内容を理解できない、コミュニケーションをとるのが苦手な子どもたちが増えています。苦戦している子どもたちを救うための手立てや授業づくりを一緒に考えます。
人見 久城 (教授)	理科教育学 カリキュラム開発	* 社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものでしょうか。理科の教師は、何を身に付け、何ができればよいのでしょうか。理科の授業づくり、授業分析、教育課程編成などに関心があります。
日野 圭子 (教授)	数学教育学	* 算数・数学の授業研究を一緒に行いながら、内容の意味理解、思考力、学び合い等のテーマに取り組みます。最近では、授業の中で、教師や子どもが算数・数学をどのように語っているかに関心があります。
和井内良樹 (准教授)	道徳教育	* 小学校教員として授業研究に取り組んできました。「特別の教科 道徳」において、考え、議論する道徳への転換が求められる中、子ども自らが考え学び合う道徳授業づくりについて研究を進めています。
渡辺 浩行 (教授)	英語教育 授業分析	* 授業における教師の児童・生徒への働きかけ、それに対する児童・生徒の反応、その反応を受けての教師の返し、について研究しています。この観点での授業観察・分析を共にしていきましょう。

※宇都宮大学HPのトップページ左下「研究者総覧」をクリックしていただきますと、教育学部・教育学研究科等の教員情報が確認できます。そちらも参考にいただけましたら幸いです。

※教職大学院の連携協力校に応募して下さった学校には優先的に支援いたします。

## 「省察と反省的实践家」

教育実践高度化専攻特任准教授 石嶋 和夫

私たちは教員として、専門的知識や科学的技術を身に付け生かすことにより、学校が抱える問題を解決しようと努力してきました。社会の変化に伴い、問題が多様化して専門的知識が細分化され、更に多くの知識や技術を身に付けることが求められてきました。しかし、それらの問題にはそれぞれに複雑な背景や想定外の要因が含まれることが多く、解決の糸口が見いだせないことが少なくありません。

そうした専門的知識や科学的技術を適用して問題を解決する「技術的熟達者」としての専門家像ではなく、ドナルド・ショーンによる「反省的实践家」という専門家像が、教育界においてもかなり広まってきています。これは専門家の専門性とは、活動過程における「知」と「省察」それ自体にあるとする考え方です。反省的实践家の知を捉える鍵は、「行為の中の知」「行為の中の省察」「状況との対話」という三つの概念です。

中でも特に「行為の中の省察」は、決して「状況との対話」として遂行される活動中の思考に限定されるものではありません。それは、実践の事後に出来事の意味を振り返る「行為の後の省察」を含むだけでなく、実践の事実を対象化して検討する「行為についての省察」を含んでいます。したがって、「反省的实践家」は、「状況との対話」を展開しているだけではなく、それと併行して「自己との対話」を展開しているのです。

ショーンは、「反省的实践家」が、その行為をなすことに有能であり、行為の中の省察を通して自分自身の行為から学び、有効な行為を選び取ることができることを示したのです。

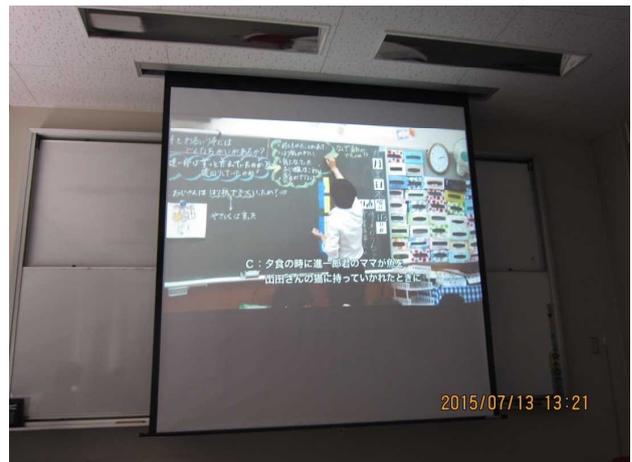
参考文献 ドナルド・ショーン(2001-2015)『専門家の知恵—反省的实践家は行為しながら考える—』

(佐藤 学・秋田喜代美訳)ゆみる出版.

## 《シリーズ:教職大学院授業紹介⑨ 「カリキュラム開発の実践と課題」(共通科目[前期])》

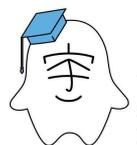
日本の学校現場では「授業研究」はさかんに行われていると言えます。しかし、「カリキュラム開発の研究」はまだ、さかんに行われているとは言い難いでしょう。

「授業で子どもたちを育む」という意識は充分にあっても、「カリキュラムで子ども達を育む」という意識は、まだ学校現場に充分には定着していないと思います。そこで、この必修科目でもある「カリキュラム開発の実践と課題」では、まさに「カリキュラムで子ども達を豊かに育てている学校」の実践を映像、文献等を通して紹介し、その特質を解説しながら、その後、紹介した学校のカリキュラムについて様々な視点から院生同士で議論してもらいます。こうした紹介・議論を通して、「カリキュラム開発によってこそ子ども達を豊かに育てていくことが出来るという可能性」を一人一人の院生が実感し、同時に、「小さなカリキュラム開発」をはじめてみるこの「大きな可能性」を実感してもらうことを念頭に、この科目を展開しています。



ただその際、院生のみなさんに繰り返し問いかけているのは、カリキュラム開発の前提としての「教育目的」についての検討です。大げさに聞こえるかもしれませんが、私達は、「世界の平和をやがて実現していくことが出来る力を育む」ことを「教育目的」とするのか、それとも「一国の単なる経済成長に資する力を育む」ことを「教育目的」とするのか。「カリキュラム開発」の質は、どのような「教育目的」を構想するかによって、大きく変わってきます。「教育目的」と「カリキュラム開発」の関係性を明確に意識することはとても大切です。そしてまた、「カリキュラム開発」を通してこそ、一時間一時間の「授業」をより豊かなものにしていくことが出来るということを、院生のみなさんが充分に実感できることを目指して、この科目を展開しています。

(担当代表:青柳 宏)



《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市350番地 Tel: 028-649-5242 <http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook: <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。